

生き方リサーチ

豊かだけど不安な中で――

■時代の空気を読む

最近「KY」(空気を読めない)という言葉が巷で流行っているらしい。場の雰囲気を感じる事ができずにふるまう人を指したり、そんな人に対して雰囲気を感じてふるまうよう警告したりする場合には使うようだ。直近では突然の首相辞任がまさに「KY」だと言われた。

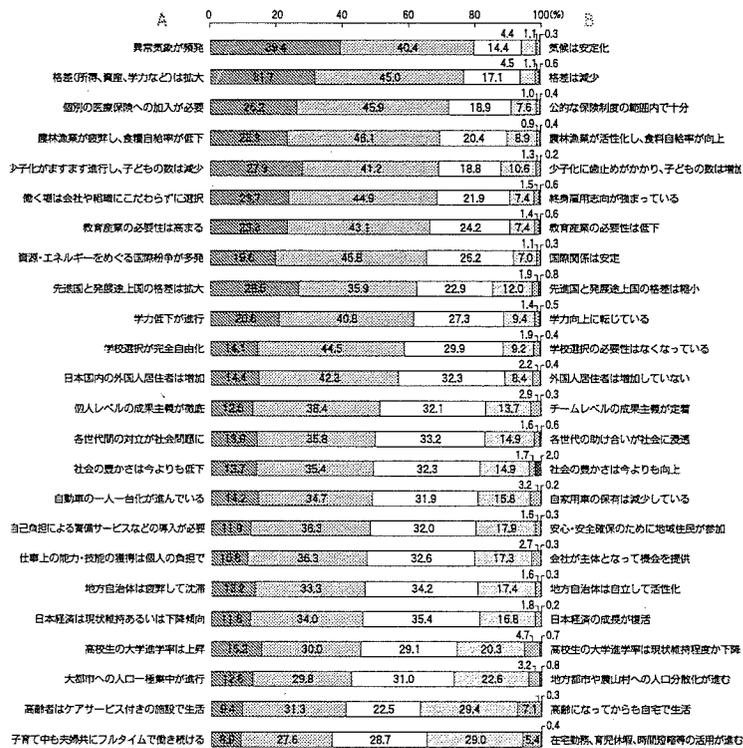
しかし、じつはあの辞任を心の内で「うらやましき」や「同情」をもって見ていた方々も少なくなかったのではなからうか。厳しい競争の矢面に立ち、内外、上下からのストレスに耐え、勝ち残っていくために走り続ける毎日から「もう、こんなこと続けるの、やめた!」と、すべての責任を降り出したくなるような衝動を、多くの人々は心に潜ませているだろう。しかし、それを出さずにとどめていられる理由の一つは、もっと明るく豊かな明日、もっとおもしろい明日への希望が残されているからだ。

■8割の人々が10年後に不安そんな中、HRIでは「10年後の社会と生活」という調査レポートを9月に発行した。全国の20〜64歳、男女3600名の回答を得たウェブアンケートの分析レポートである。10年後の自身の暮らしや家族、働き方、社会や技術につ

10年後の社会をイメージする

描かれる未来は明るくない

10年後の社会はどのようになっていると思いますか。



10年後の日本社会に関する予測では、「地球温暖化に有効な対策がなされず、異常気象が頻発している」「生活を取り巻くさまざまな格差(所得、資産、学力など)は拡大するばかりである」をはじめ、多くの側面で悲観的な予測が多数派となっている。

不安な未来に求めるもの

の9月8日に発表された内閣府の「国民生活に関する世論調査」においても、日常生活に不安を感じていると答えた人は69.5%に及び、2年連続で過去最高を更新したことが報じられていた。未来への不安、現状への不満が充満している日本社会があぶり出されているのだ。

■日本の近未来への三大不安
それでは、わたしたちの不安

■希望が見えない10年後
そこで、調査結果から10年後の社会イメージを探ってみよう。まずは、日本社会の豊か

さはどうだろうか。10年後は「今よりも低下」とする回答者は49%にも達し、「経済成長が復活」と回答しているのは19%にとどまる。その結果、77%の回答者が「所得、資産、学力など格差は拡大」と回答している。この「格差拡大」に関して

の会社で働き通す「働き方は1割の支持も得られていない。このような働き手側の意識に対して、雇用や処遇に関する制度は追いつけていない。これから10年、働く場はさらに変化が増すだろう。

また、教育や学校については「学力低下の進行」「教育産業の必要性の高まり」「公立小中学校の選択完全自由化」が過半数の支持を得た。このことは、今後10年を通じた「公教育の信頼回復」が極めて困難であると生活者が判断している

か。そして、その背景にある状況とは、これまでのように安心して社会に身を委ねていられ、多少の差はあれども、みんないっしょに豊かになれた「依存できる社会」をあてにできなくなるといふ生活者の不安だ。

働く場や働き方はどうだろうか。「一つの会社にこだわらず、自分の能力を活かせる場を選ぶ働き方」が、約7割の支持を得ている。もはや、一つの

以上のとおり、今回の調査結果を一覧すると、10年後の日本社会に対して抱くのは「不安」であり、生活者の心の内に高まってきているのが明らかだ。調査を実施した我々当事者としても、これほどまでに悲観的な結果が表れるとは予想していなかったのが驚いている。しかし、これが3600名とはいえ、日本全国から寄せられた生活者の声の現実であることに間違いはないのだ。

安心・安全の技術開発期待
また今回の調査では10年後の科学・技術についても、生活者としての実現への期待を尋ねてみた。そして、その結果はまさに前述してきた「不安」への裏返しと言ってよい結果であった。

「10年後、どのような技術が実用化、もしくは普及しているか」という問いに対して、5項目を比べてわかるのは、自分の「安心・安全」を確保するための技術が求められており、もはや「快適性・利便性・効率性」を高めるための技術への期待レベルが相対的に下がっているということだ。